

社団法人 日本東洋医学会  
専門医制度委員会 関東甲信越地区  
平成15年度 春季教育講演会

日時：平成16年2月8日（日）10時～15時  
会場：砂防会館シェンバッハ・サポー

## 漢方をめぐる国際的な動向について

慶應義塾大学医学部東洋医学講座

渡辺賢治

【緒言】わが国の漢方医学は極めてユニークな状況にあると考える。まずは西洋医学の教育を受けた医師が主に用いている。また、医療用漢方製剤の品質は極めて高く安定している。

しかし、こうしたことが世界的に見ると知られていないばかりでなく、国内においても多くのひとが、漢方薬は中国が本場で中国に行けばいいものを買えると信じている。

確かに漢方は中国にその起源を発するが、明確に中国とは異なる発展を遂げ、わが国独自の医学として捉えるべきと考える。そもそも「漢方」という用語がわが国の造語であり、世界的には漢方といえば日本独特の伝統医学を指すものである。

近年中国で買った生薬製剤もしくは個人輸入の生薬製剤による健康被害の報告が相次いでいるが、これらも漢方としてマスコミに報道されるなどその誤解が後を絶たない。一方世界に目を向けると欧米では生薬製剤に対する関心が高まっており、NIHの部門として National Center for Complementary and Alternative Medicine (NCCAM) が1999年に発足したが、年間予算1億2千万ドルで研究支援を行っている。2001年NCCAMは Office of International Health Research を立ち上げ、2002年、それまで単一の生薬の生薬製剤はものしか研究対象としていなかった方針を転換し、複合生薬に対しても研究支援をすることとした。

中国を始めとするアジア諸国はいち早くこうした動向に注目し、米国と共同研究を開始しているのに対し、わが国は国際展開が遅れている。

今後国内外において漢方医学の存在を示すことが急務と思われる。

氏名 渡辺 賢治

**履歴**

昭和59年3月 慶應義塾大学医学部卒業  
昭和59年4月 慶應義塾大学医学部内科学教室  
昭和61年5月 足利赤十字病院内科  
昭和63年4月 慶應義塾大学医学部内科学教室助手  
平成2年4月 東海大学医学部免疫学教室助手  
平成3年12月 米国スタンフォード大学遺伝学教室ポスドクトラルフェロー  
平成5年12月 米国スタンフォード大学ライチンズフェルト分子細胞学教室ポスドクトラルフェロー  
平成7年5月 北里研究所東洋医学総合研究所  
現在8年8月 北里研究所東洋医学総合研究所漢方診療部医長  
現在12年4月 北里研究所東洋医学総合研究所臨床研究部副部長  
現在13年5月 慶應義塾大学医学部東洋医学講座助教授  
現在に至る。

**学会及び社会における活動等**

内科専門医会評議員、米国内科学会上級会員、日本東洋医学会評議員、日本東洋医学会指導医、日本東洋医学会用語委員会委員、和漢医薬学会評議員、厚生労働省薬事・食品衛生審議会専門委員、

**漢方歴**

学生時代より大塚恭男先生、長谷川弥人先生に師事